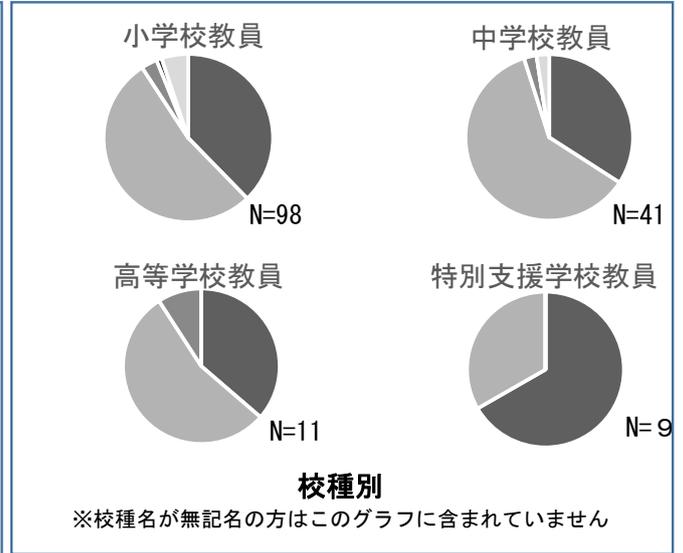
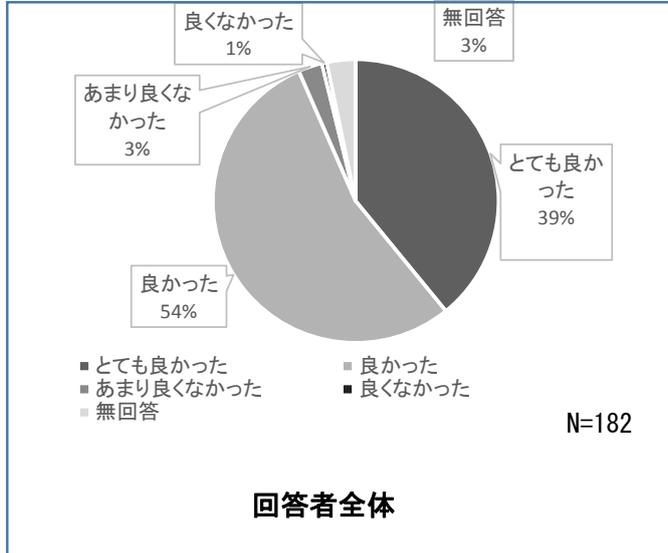


【教員】

平成27年度「学校と地域を結ぶコーディネーター担当者」等研修 (しが学校支援メニューフェア) アンケート集計結果

■期 日：平成27年8月3日(月) ■会 場：ピアザ淡海
■対 象：小・中・高等学校・特別支援学校教員 [182名より回答]

Q1 本日の講義はいかがでしたか



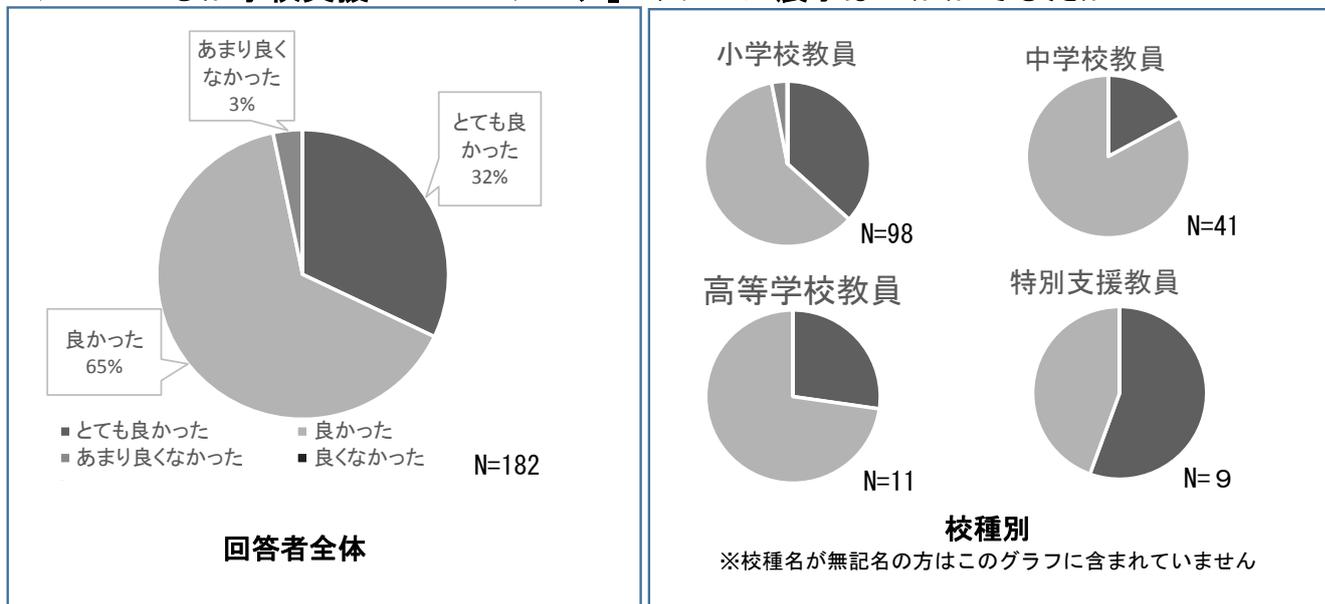
理由等自由記述欄より

■以下、アンケートの記述欄から抜粋して紹介します。
■記述内容により、いくつかの категорияに分けてあります。
■企業・団体・NPO等の方を以下「支援者」と表記させていただきますことがあります。

●【講義の感想】

- ・ 学校と地域を結ぶ教員に求められる役割がよくわかった。
- ・ 福祉教育の視点、地域を結ぶということがすっきり理解できた。
- ・ 知識の面だけでなく、現在の課題や生の声を聴かせていただき大変わかりやすく解説していただけたことが良かった。
- ・ 地域の教育力をどう学校教育の中に取り組みしていくかということについて考えさせられた。
- ・ DVD「智の物語」の映像には、胸が締めつけられる思いがしました。地域と共に取り組むことがいかに大切であるかを感じた。
- ・ 学校、地域、家庭が一緒になって、取り組んでいくことの大切さを感じた。広義の福祉教育は人権教育、特別支援教育とつながっていることを感じた。
- ・ 地域と学校と家庭の三つで子どもを育てる、教えることの大切さがわかった。今はその三つの協力が弱くなってきている。講義を聴いてそれをつなぐコーディネーターの大切さを感じた。
- ・ 斜めの関係、出会いの演出家、助けられ上手等キーワードとなる言葉が印象に残った。
- ・ 教師(学校)だけでなく、支援者にとってもプラスになるWIN=WINの関係を築いていくことの大切さを学んだ。
- ・ 専門家に入っていただくことで事象に対して様々な方向からの支援ができるということを再認識した。「助けられ上手」という言葉はまさに今、学校が学校だけで抱えず様々なところとつながって子どもを育てる視点の大切さを感じた。
- ・ 一方向の支援だけでなくいろんな方向から連携、助け合い、補いながらの取組が必要だということがよくわかった。
- ・ 地域の福祉力、教育力として、公助、互助(共助、近助)自助について、大変勉強になった。

Q2 「しが学校支援メニューフェア」のブース展示はいかがでしたか



理由等自由記述欄より

● 【ブースを見学しての感想等】

- ・ 具体的にどの学年でどのように活用していくかを考えながらお話を聞かせていただくことができた。
- ・ 支援者の方が前回参加した時よりも増えており、興味をもってブースを廻ることができた。
- ・ どの支援者の方も熱心に丁寧に説明してくださり、わかりやすかった。
- ・ 情報教育や環境教育、キャリア教育等の分野で、支援者の方の協力を得られることは、非常にありがたい。
- ・ より効果的な学びとなるように、お任せではなく、しっかり双方で打合せをして学校側の要望を伝えることが大切だと思った。
- ・ 少し視点を変えて今の取り組み方を見直すきっかけとなった。
- ・ 何回か参加しているが、大会議室でのブース展示は見学しやすく良かった。
- ・ 特別支援の生徒をイメージしながらブースを廻らせていただいた。お話を伺う中でマッチする部分に気付けるなど、具体的なイメージを広げることができた。

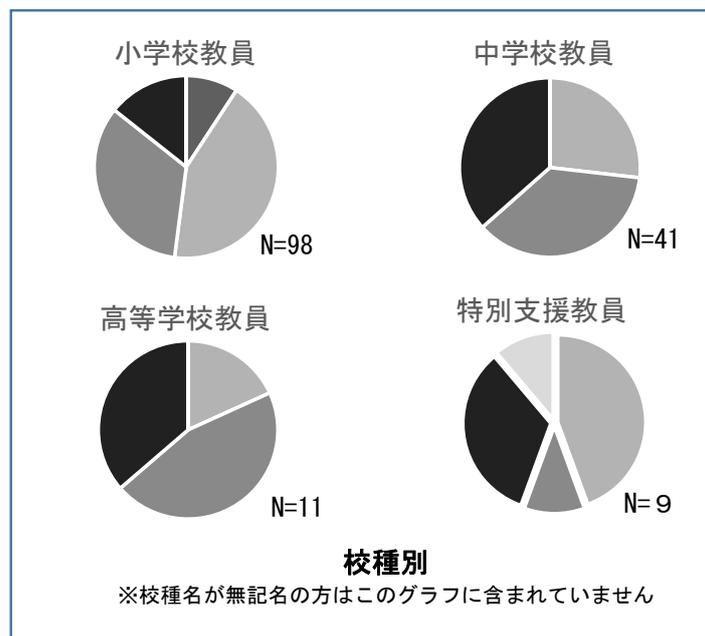
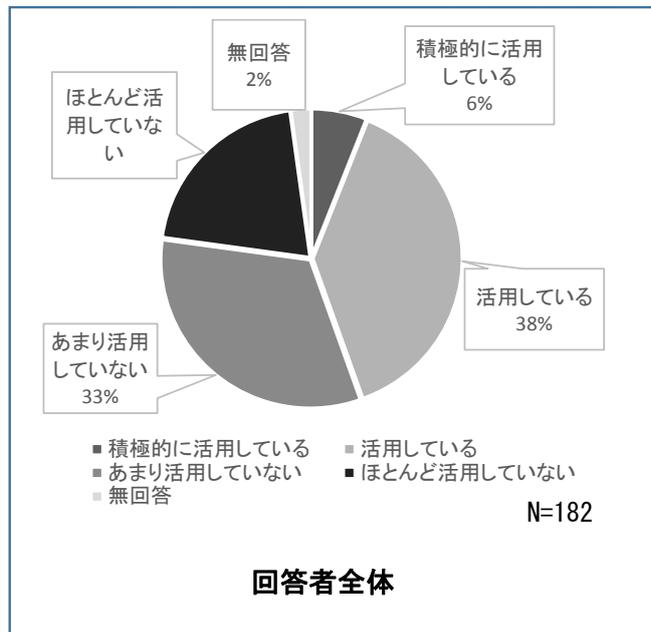
● 【今後の希望等】

- ・ 子どもたちの実態をもとに、身につけさせたい力を見極め、「学校支援メニュー」を活用したい。
- ・ 各学年に紹介し、活動の幅が広がればと思う。
- ・ 地域や家庭(子ども、保護者)のニーズに合わせて学区の小学校とも連携して活用を考えていきたい。
- ・ 特別支援学校でニーズ多様化の中、該当の子どもにあてはまる講座があれば活用していきたい。
- ・ この「学校支援メニュー」と共に、身近な地域にも目を向けていきたい。

● 【その他御意見】

- ・ バリエーションに富んだ内容でよかったが、少々時間が長かった。

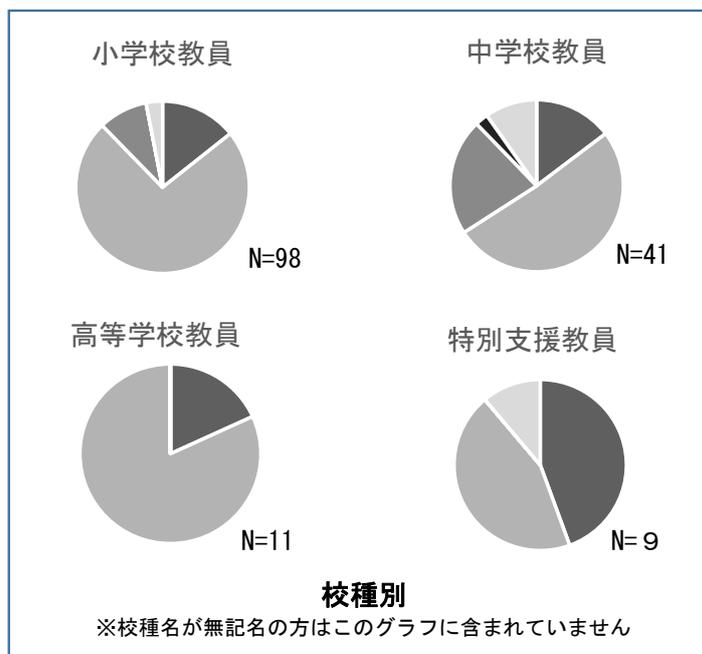
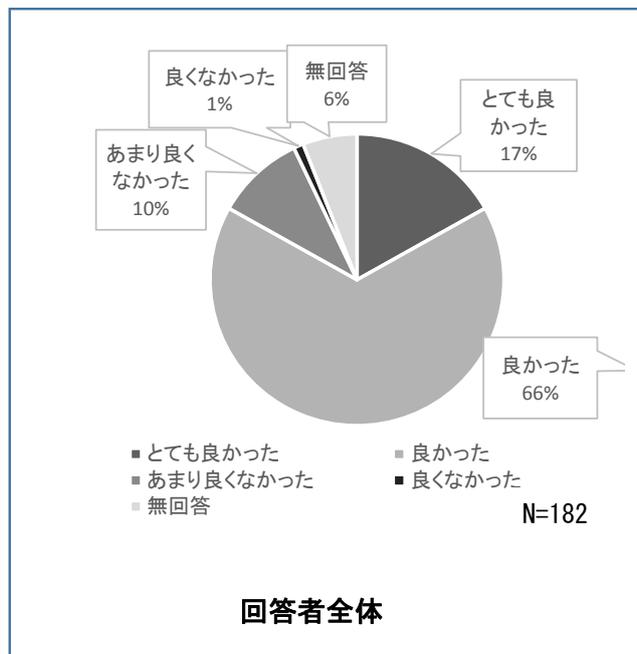
Q3 あなたは学校では、現在「学校支援メニュー」を活用されていますか



理由等自由記述欄より

- 【積極的に活用している】または、【活用している】方の理由等
 - ・「地域の力で学びの充実を」をモットーに積極的に活用している。
 - ・以前から「におねっと」等を知っていて、とても重宝している。
 - ・年間計画に取り入れている。
 - ・体験を重視しているメニューが多く、大変好意的に内容等、学校の実情に合わせていただける。
 - ・本物の出会いが難しい中で、この「学校支援メニュー」により、新しい出会いの場が見つかったから。
 - ・学校では準備しきれない用具等を使って効果的に行ってもらえる。
 - ・子どもたちの学びに合うものを選択している。
 - ・一度活動させていただいた「学校支援メニュー」を継続して活用している。
 - ・職場体験の事前学習に活用している。
- 【あまり活用していない】または、【活用していない】方の理由等
 - ・年間計画に位置付けられていない。
 - ・学校独自で地域の人材を活用している。
 - ・職場内で情報を共有できていない。
 - ・ある程度学校の年間計画に組み込まれているため、新しいものを入れる余裕がない。
 - ・周知する努力はしているが、時間的な問題がある。
 - ・担当が一年ごとに変わっていて、連携がうまくいかなかった。

Q 4 今回の情報交換はいかがでしたか



理由等自由記述欄より

● 【相互理解を深めることについての感想等】

- ・ 支援者の方の熱い思いを直接聞くことができて良かった。
- ・ 実際に活用されている学校の教員にその方法を聞くことができて良かった。
- ・ 実施に当たっての様々な留意点がわかり参考になった。
- ・ このような情報交換会があることで、年々よりよい「学校支援メニュー」になっていくのだと感じた。
- ・ 3回目になるが、今回のようにつまんだ話を聞くことはなかったので、いろいろな情報を聞いたのと同時に支援者の方の支援内容とは違った角度からの話が聞けてよかった。
- ・ 打合せ、情報や思いを学校側と支援者側がしっかり共有することが大切だと思った。
- ・ Win=Winの関係で子どもを育てたいという共通の思いのことがよくわかり、とても良かった。
- ・ 「学校と地域を結ぶコーディネート担当者」としての課題が、学校側、支援者側双方から明らかになり、具体的に気をつけるべきことが見えました。

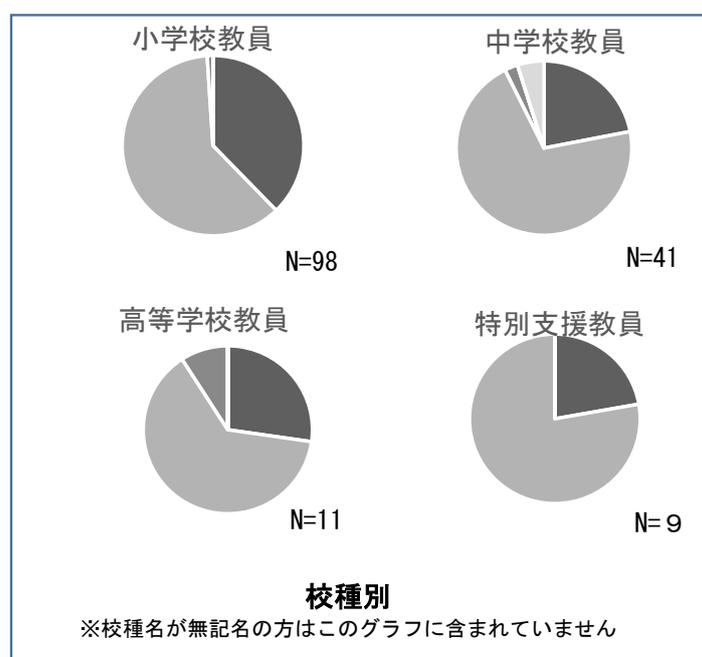
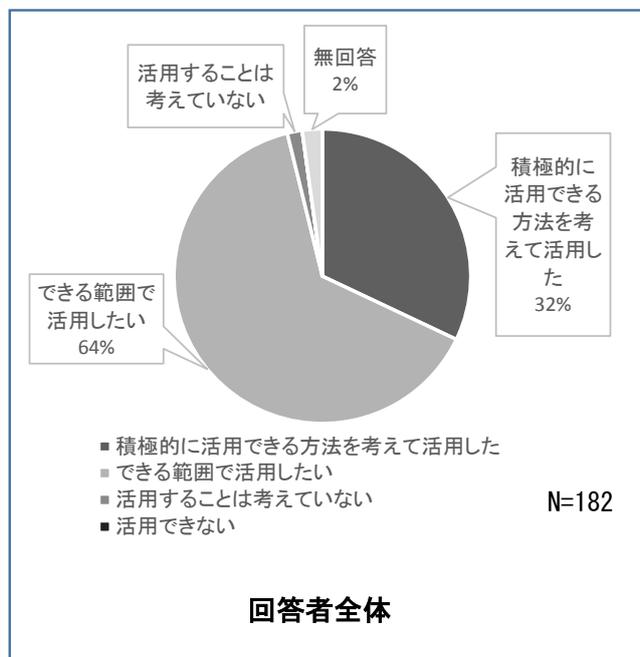
● 【今後の希望について】

- ・ 活用する際に、気をつけることや準備すべきことに充分気をつけて実践につなげたい。
- ・ どのような「学校支援メニュー」を活用するにしても、目的を明確にして学校として主体的に取り組みたい。
- ・ 高校はどのように「学校支援メニュー」を活用できるのか、考えるきっかけになった。

● 【会場での意見交換等、情報交換会の持ち方についての御意見】

- ・ 聞いてるだけでなく、隣の方と直接話し意見交換の時間があって有意義だった。
- ・ 活用例やよい点、また、困っている点等わかりやすく進行していただき、座席の工夫をして情報交換会ができて良かった。
- ・ 話し合うにはこの座席では時間が足りなかった。

Q 5 今後、「学校と地域を結ぶコーディネーター担当者」等として、「学校支援メニュー」を活用することについて、あてはまる番号を○で囲んでください。



理由等自由記述欄より

- 【活用を進めていきたい】
 - ・ 校内研修などで広めたい
 - ・ 助けられ上手になって、子どもたちにいろんな経験をさせてあげたい。
 - ・ 地域にない魅力的なものがあり、まず紹介したい。
 - ・ 教育課程に位置付けて、学習がさらに有効に効果的になるよう、活用を進めていきたい。
 - ・ 口コミや、知り合いにたよる方法では限界があり、今後活用を考えたい。
- 【年間計画等見直し】
 - ・ 年間計画の見直しを図りたい。
 - ・ 年間の見通しの中でどの時期なら取り組めるのか学校、学部で考えながら活用したい。
 - ・ 次年度構想時に全教職員に情報を共有して、「学校支援メニュー」をどう活用していくべきかを考える必要がある。
- 【特別支援学校の教員からの意見】
 - ・ 生徒の発達段階が様々なので無理なく活用したい。
 - ・ 「小学3年以上」という対象が多いが、幼児向けくらいの内容でやってくださる所が増えたら頼みやすい。
 - ・ 来ていただくことで、とても効果的な面と、大変な面がある。バランスを考えながら取り入れていきたい。
 - ・ 特別支援学校において、ニーズ多様化の中、該当の子どもに当てはまる講座があれば活用したい。

Q6 その他、自由記述

● 「学校支援メニュー」について

- ・ 学校指導要領まで読んで授業の支援として工夫してもらっていることを知り、驚いた。
- ・ 小規模校の学校を支援するメニューは多いと感じるが、大規模校支援で体験的なメニューが今後増えていくとありがたい。
- ・ 「学校支援メニュー」を活用することが学校と地域を結ぶ一つだと思った。
- ・ 教師の研修の出前授業講座があればいいと思った。

● 「しが学校支援メニューフェア」全般について

- ・ すごくたくさんの方の支援者の方が集まってくださり、学校や子どもに対する温かい思いが伝わりました。
- ・ 2回目の参加だが、利用の可能性について、現実味が出てきました。今後も続けて欲しい。
- ・ 以前参加した時よりも、内容も豊富で洗練された内容になって、使いやすくなっているように感じた。

● 【研修全般を振り返って感想等】

- ・ 学校現場でも地域の支援者も広がり、学校と地域の協力もされてきている。地域の力を教育に活かせる学校の力量を上げる必要がある。
- ・ 助けられ上手になって、子どもたちにいろんな経験をさせてあげたい。
- ・ 子どもにどんな力をつけたいかをまず基本に考えたい。

高校生ともなると、地域で活動する中で主体的に動く力や社会性を培うことも充分考えられる。単に見学に行ったり、授業を受けたりするだけでなく、高校生が小・中学校に行ったり、地域でのイベント等に生徒会に要請が来たり、そういう中で育つ力も大きいのではないかと思う。

● 【学校と地域を結ぶコーディネーターとしての感想】

- ・ 学校と地域を結ぶコーディネーターの果たす役割も大きいと考えている。
「学校と地域を結ぶコーディネーター」として具体的に何をしていくのかと考えていた。今日の研修で考えの幅が広がった。

校内で本研修の担当者についてどこの組織で担うのか検討されていない中で、「特別支援教育コーディネーター」が受講している。本研修が校内の教員にとっては、興味深い情報になることには間違いない。

- ・ 「学校と地域を結ぶコーディネーター」の認知度を高め、校内組織をスマートに整えることで、効率的に有効な実践を目指したい。

【しが学校支援センターより】

参加者の、研修に対する満足度は全体的に高かった。

講義において、本年度は福祉教育を専門とした講師の先生の話であったことから、福祉教育に関する感想があった。しかし、新たな視点から、「学校と地域を結ぶコーディネーター」等に求められる役割について御教示いただいたことで、多くの方が「とても良かった」「良かった」という感想をもたれた。

ブースの展示については、直接支援者の方と話をすることにより、「学校支援メニュー」を有効に活用したいという思いをもたれた方が大変多くおられた。年々、ブース数が拡大しており、本年度は大会議室を会場として設定したが、多少の混雑はあったものの、概ね好評であった。

情報交換会のパネルディスカッションの内容については、双方の立場での意見が聞けたことで、今後「学校支援メニュー」を活用する際の参考となる内容であった。

来年度は、また新たな「学校と地域を結ぶコーディネーター」等が受講者となる研修となる。一年に一度、学校と支援者が直接意見交換が出来る場としての「しが学校支援メニューフェア」や、「情報交換会」が有意義な研修の機会となるように、これらの結果を参考に考えていきたい。